

5 分間のインタビュー ABE & PARTNERS 阿部隆徳弁護士

Managing IP では、毎週、さまざまな知的財産の実務家たちにその人生やキャリアについて話をきいている。

Managing IP の「5 分間のインタビュー」シリーズでは、知的財産の実務家たちの個人的な側面や職業的な側面について詳しく紹介している。今回は、大阪にある ABE & PARTNERS（阿部国際総合法律事務所）のマネージングパートナー、阿部隆徳弁護士に話をきいた。

パーティーで、あなたの職業を尋ねられたら？

「目には見えないが大切なもの」を守るお手伝いをしています。

通常の 1 日の流れは？

朝：ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮のモーツァルトの『レクイエム』を聴きながらコーヒーを飲みます。

午後：グレン・グールドの弾くバッハの『ゴールドベルク変奏曲』を聴きながら紅茶を飲みます。

夜：辻井伸行の弾くショパンの『ピアノ協奏曲第 1 番』を聴きながら赤ワインを飲みます。その間ずっと、案件をどうしたら勝てるかを考えています。夢の中で裁判官と話し合っています。

現在、どのような案件に取り組んでいる？

大手グローバル製薬企業を代理して、様々な製薬特許案件に取り組んでいます。先発 v. 先発、先発 v. バイオシミラー、先発 v. ジェネリックの侵害訴訟があります。特許庁での無効審判や異議申立手続も担当しています。

また、グローバル企業や国内クライアントに対し、標準必須特許の FRAND に関するアドバイスも行っています。

通常、一つの大きな案件が優先されるのか、それとも複数の案件を並行して進めるのか？
宇宙飛行士のようにマルチタスクをこなすことを求められます。

仕事の中で最もやりがいを感じる点と最もストレスを感じる点は？

案件で勝訴し、クライアントの笑顔を見て握手する瞬間が最もやりがいを感じます。負けた時にクライアントの悲しそうな顔を見るのが最もストレスを感じます。

知的財産の弁護士/実務家として成功するための重要な特徴は？

新しい地図を描く意欲です。

知的財産に関する最も一般的な誤解は？

知的財産権は富裕層のみに利益をもたらすというバイオエシックスからの批判です。

あなたを刺激するものまたは人物は？

1987 年のノーベル生理学・医学賞受賞者、利根川進氏です。彼は、免疫学の 100 年以上の謎だった獲得免疫システムの遺伝的メカニズムを解明しました。

知的財産の分野で働いていなかったら、何をしている？

分子生物学者になりたいです。

若い頃の自分にアドバイスはあるか？

特にありません。